

バイオテクノロジー標準化支援協会ジャーナル No.123

SABS Journal No. 123

発行日：2021年2月25日

URL：<http://sabsnpo.org>

当 SABS ジャーナルでは、故奥山典生東京都立大学名誉教授が 2015 年 6 月 13 日のご逝去直前まで毎回様々な分野にわたり溢れる蘊蓄を披露されて居られました。その後、奥山先生のご遺志を継いだ我々が協会を続けさらに発展させて行くため、毎月の定例会を継続して来ました。定例会ではこれ迄通り専門家の方々に話題を提供して頂き、自由な討論を通じて勉強と親睦を深めています。

前回のジャーナルは 1 月の定例会を中止という内容でしたが、今回もまた 2 月 27 日に予定していた定例会を再び中止するというお知らせをすることになりました。お知らせがこんなに遅くなってしまったことをお詫びすると共に来月（3 月 27 日）にはぜひ開催出来る事を祈るばかりです。

思い返すと昨年は定例会会場の都立大八雲クラブが 3 月から 5 月まで利用中止となったことで、2 月 22 日の第 101 回定例会のあと、3 月、4 月、5 月と開けませんでした。

その後 6 月 27 日にやっと第 102 回定例会を開くことが出来ました。そして例年のように 7 月と 8 月は夏休みとし、9 月には第 103 回の定例会を開くことが出来ました。このときは会場の都合で定例の第 4 土曜はとれず、第 2 土曜（9/12）になりましたが、ほぼ前回と同人数の方々の出席を頂き盛会でした。当時既に感染者のほとんどが 20-30 代となるなどコロナ事情も大きく変わって来ていました。続いて 10 月の第 104 回ではウイルス専門家石古博昭氏にお願いしてウイルスの一般的なお話とコロナウイルスについて詳しい解説をして頂きました。いずれの会にも 10 数名の方々に出席して頂きました。それから後、情勢は悪化し、10 月半ばには東京の一日の新たな感染者数は 200 人になりました。それにも驚いていたのですが、年末と更には年が明けてからも減るどころか激しい増え方で一日なんと 2000 人以上の新たな感染者が出るようになってしまったのはご承知の通りです。12 月 12 日に予定していた忘年会を兼ねた第 105 回定例会は取りやめたのですが、翌年の 1 月 23 日の定例会を新年会として期待していました。しかし、遂に 1 月 7 日には緊急事態宣言が発せられこれも取りやめ今日に至りました。思えば、初の緊急事態宣言が発令された昨年 4 月 7 日の東京の新規感染者数は 87 人だったのです。あの頃、街は閑散として静まりかえり、通勤電車もガラガラだったのですが、その後、緊張感が薄れたこともあり、混雑は復活。2 回目の宣言前夜の今年 1 月 7 日の東京の新規感染者は何と昨年 4 月 7 日の 31 倍という 2447 人になってしまいました。その後幸いすこしずつ減り続け、前 122 号ジャーナルには当時（1/20）の新たな感染者数 1247 人で「高止まり」と書きました。しかし医療崩壊の危険は

未だ全く収まっていないことから当初2月7日までとされていた非常事態宣言を首都圏では3月7日まで延長することになりました。その後やっと昨日(2/23)には200人台になっていますが首都圏では未だ昨年4月の状態には程遠い現状です。近畿や中部地方では3月7日を待たずに今月中に解除という動きも報じられていますが、首都圏はとにかく3月7日までは頑張ろうということで東京・埼玉・神奈川の知事たちは一致しているようです。

生前奥山先生はテレビ電話 Skype の導入に熱心で、当時パリに滞在されていた小林理事がスクリーンに登場した定例会があったのを思い出しました。最近は Skype より進化した ZOOM が今盛んに使われてリモート会議が行われています。筆者も大学時代の運動部同期の連中と年末から2度ほど経験しました。慣れないので苦労していますが世話役が頑張っ
て何とかやっています。次回3月27日の定例会では遠方の方などは ZOOM で参加できるようになったらとも思っています。カメラとマイクの着いたノートパソコンがあれば誰でも比較的簡単に出来るようです。筆者の場合、据え置き型パソコンなのでマイク付カメラを通販で買ったのですがパソコンが windows7 だったので苦労しました。当会の理事には詳しい方々が
大勢居られるので相談して実現できたらとも考えています。

来月には次号 No124 を発行予定です。次回定例会のご案内を出来る事を切に祈っています。

当会の活動はこの定例会の他、川崎博史理事を中心に、やはり奥山先生の懸案だった1942年に緒方富雄博士によって創刊され、2013年に157巻をもって休刊となった「医学と生物学」を2018年暮れにインターネットジャーナルとして復刊を果たしました(158巻 No.1)。投稿数も順調に増え、今年
は12冊目の161巻 No.1 (2021)が発行されたことは前号でお知らせしました。<https://medbiol.sabsnpo.org/EJ3/index.php/MedBiol/issue/view/38>

創刊当時からこの雑誌は医学と看護学、保健学、薬学、生物学に限らず、化学、農学、や工学関係など幅広い分野を網羅して
いました。また原著に限らず総説、エッセイ、評論更には図書の紹介や書評も含めてぜひ皆さまの投稿をお待ちしています。今これまで定例会での話題提供頂いた方々が短い長いを問わずまとめた総説も掲載できたらと思っています。掲載図や表などの著作権の問題がありますが、インターネットジャーナルの強みで reference を URL で表示することでクリア出来るのではないかと
思っています。既に畑中顕和先生から原稿を頂いていますがこのような修正をして可及的速やかに連載できるようにしたいと思っています。

本ジャーナルもこれからは国会図書館に登録されることとなります。皆さまからのコメントも出来るだけ反映させたいと思っていますのでよろしくお
願いを申し上げます。ご感想、エッセイなどのご投稿も大歓迎です。

また以前同様に復刊誌も医学中央雑誌(医中誌)が抄録まで含めた文献情報の収載を

扱ってくれることになりました。国立国会図書館に登録する手続きも完了しました。さらに国会図書館には当ジャーナルを含む当会のホームページの内容も登録されることになったことも併せてご報告いたします。

このジャーナルはバイオテクノロジー標準化支援協会（SABS）会員だけではなく、広い意味でのバイオテクノロジー関係の方々にも配信しています。現在、このジャーナルを読んで下さる方々は600名近く居られます。殆どの方が奥山先生の関係で先生の広がった人脈に改めて驚いています。ぜひ読者の方々からも話題提供をして下さる方をお待ちしています。また新たに購読希望の方々をご紹介頂ければ幸いです。

当SABSジャーナルのホームページ https://sabs.sabsnpo.org/sabs_j/ ではジャーナルの最新号を含めたバックナンバーが収録してあります。また創刊号からのバックナンバーは <https://medbiol.sabsnpo.org/EJ3/index.php/MedBiol/issue/archive> に収録しています。またお知り合いの方でこのジャーナルを配信希望の方が居られましたら会員である必要はありませんのでぜひ筆者のアドレス thiyama@athena.ocn.ne.jp にお知らせください。

- ① 配信停止希望の方は thiyama@athena.ocn.ne.jp にその旨お知らせください。
- ② 配信先アドレス等の登録情報変更も メールにてその旨お知らせください。
- ③ バイオテクノロジー標準化支援協会に新規会員登録ご希望の方もメール下さい。
- ④ ウェブサイトに関するご意見もメールにて頂ければ幸いです。

特定非営利活動法人バイオテクノロジー標準化支援協会

NPO Supporting Association for Biotechnology Standardization (SABS)

〒173-0005 東京都板橋区仲宿 44-2

URL:<http://sabsnpo.org>.

理事：荒尾 進介、小林 英三郎、田坂 勝芳、松坂 菊生、小川哲朗、川崎博史、檜山 哲夫

監事：堀江 肇

ネット管理：川崎 博史、田中 雅樹